

3. 新庁舎建設の概要

● 平面計画

6階 平面図

設計方針 5

発電機室（上部吹き抜け）

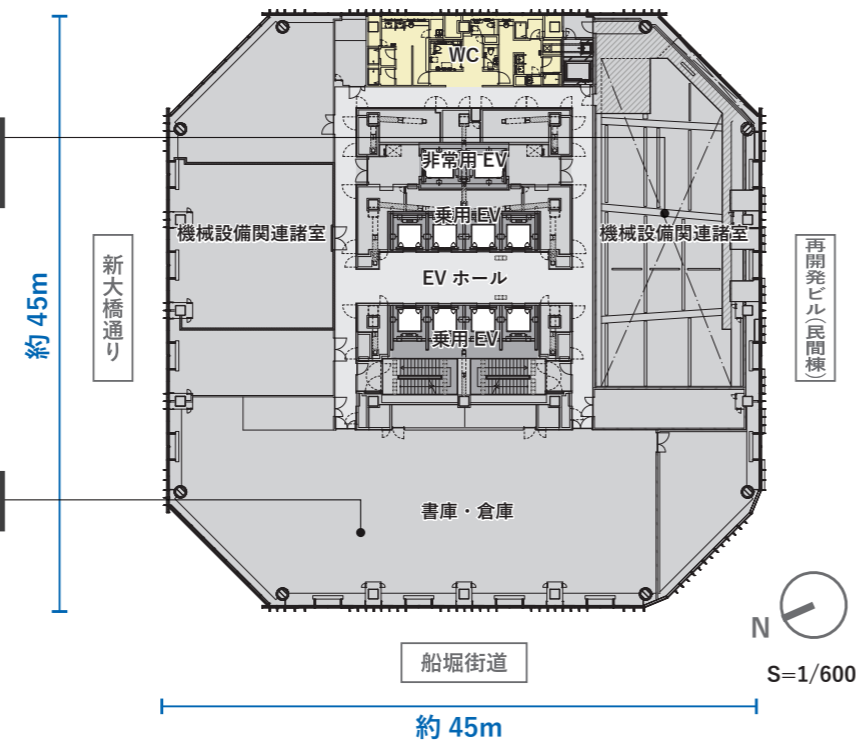
2層吹き抜け構造により、全体階高を抑制しつつ、発電機室の必要天井高を合理的に確保。

設計方針 3

書庫・倉庫

什器には集密書架を採用することで、収納効率を合理化。

機械設備関連諸室及び書庫等を中間階に集約配置し、基準階（執務室）の空間効率を高めます。



7階 -14階【基準階】平面図

設計方針 3

リフレッシュルーム

執務室とは別に、個室化して各階に計画。

設計方針 3

クリエイティブポート

業務の創造性や効率性を高める多様な居場所を執務室の窓まわりに配置。

設計方針 5

執務室（可変性）

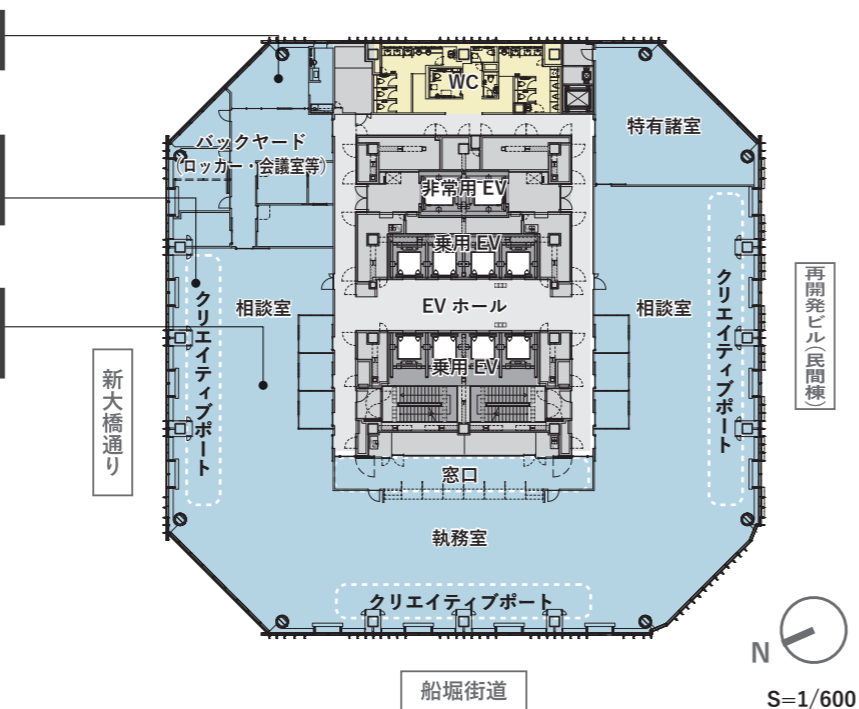
レイアウト変更柔軟に対応できる「コの字型のオープンなワンルーム主体」の空間構成。



凡例

行政機能	災害対策本部	特別職関連諸室
WC	設備機能等	その他
		EV、階段等

高層部の基準階として計画し、主に執務室を配置します。
ゾーニング構成（執務室・相談室・バックヤード）を標準化することで合理的な平面計画を行います。（乗用EV 8基着床階）



※左記特長については、基準階（15階-18階）も適用。
※上図は、基準階における代表的なレイアウト。

11階平面図

設計方針 1

特別職関連諸室

災害対策本部（危機管理部等）と同一階に集約することで、災害時の連携を強化し、迅速な指令系統を構築。

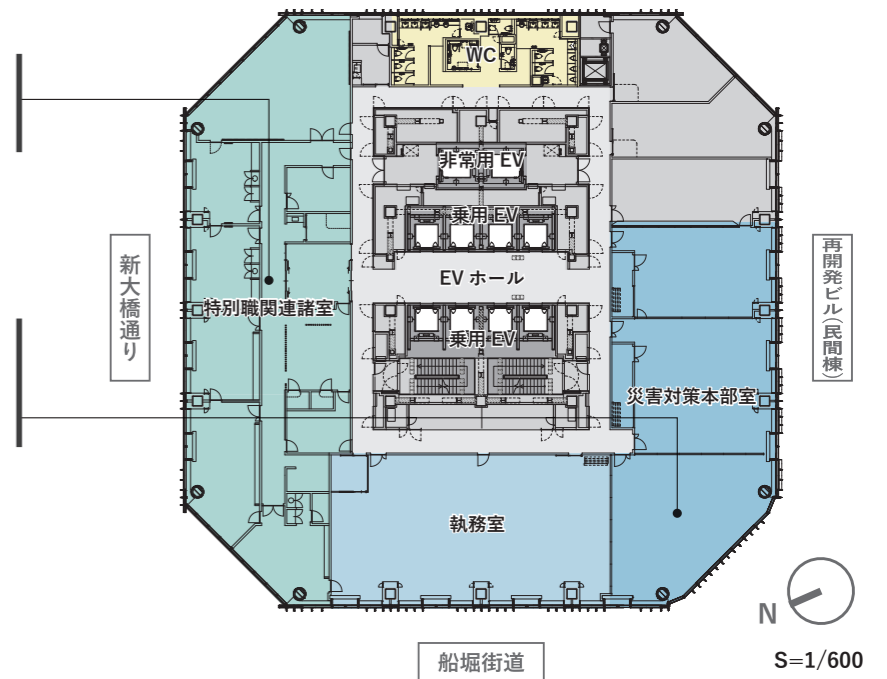
設計方針 1

災害対策本部室

消防や警察、自衛隊の災害応援も受け入れ可能な十分な規模を確保。また、高天井とし、複数台で構成するマルチディスプレイの視認性の向上を図り、情報収集や共有を効率化。



特別職関連諸室と災害対策本部室を集約配置します。



15階 -18階【基準階】平面図

設計方針 3

特有諸室

配置部署に応じて、室レイアウトや機能を個別に計画。

設計方針 4

執務室（省エネ）

天井には、省エネ性・快適性に優れた「天井放射空調システム」を採用。更に、窓を開けなくても、腰壁部分から自然の風を取り入れる自然換気システムを採用。

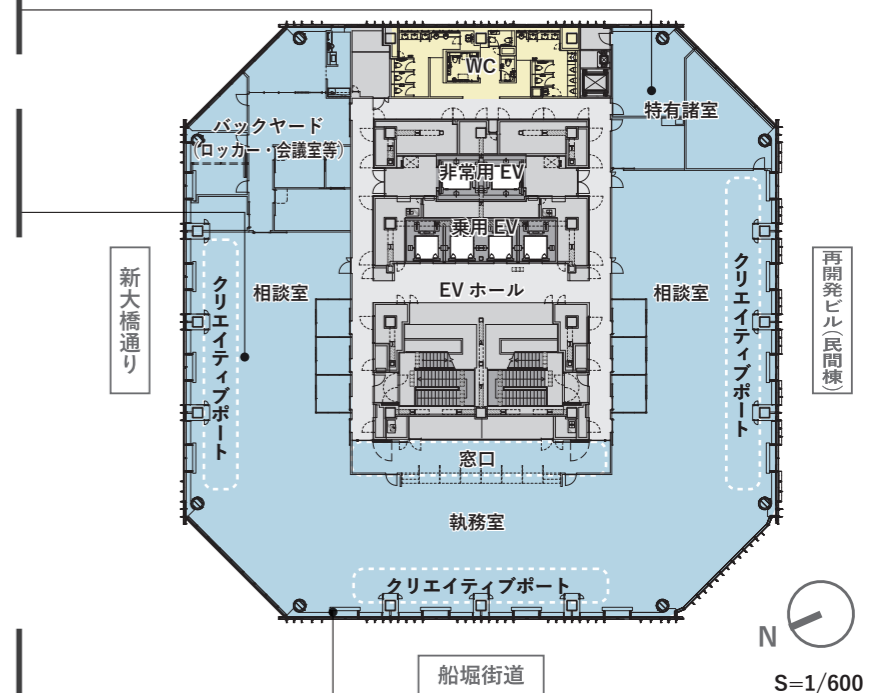


設計方針 4

環境調整装置となる外装

方向に応じた縦フィン・庇フィンの設置、耐震木パネルによる開口面積抑制、高断熱ガラスの採用などにより日射を遮蔽。

7階～14階と同様、基準階として計画します。
（乗用EV 4基着床階）



※左記特長については、基準階（7階-14階）も適用。
※上図は、基準階における代表的なレイアウト。
※実施設計段階のイメージであり、今後変更となる可能性があります。

3. 新庁舎建設の概要

● 平面計画

PH 階 平面図

設計方針 1

非常用 EV

ストレッチャー対応のかご・開口サイズを確保し、緊急時におけるヘリによる患者輸送を実現。

設計方針 1

ヘリポート用スロープ

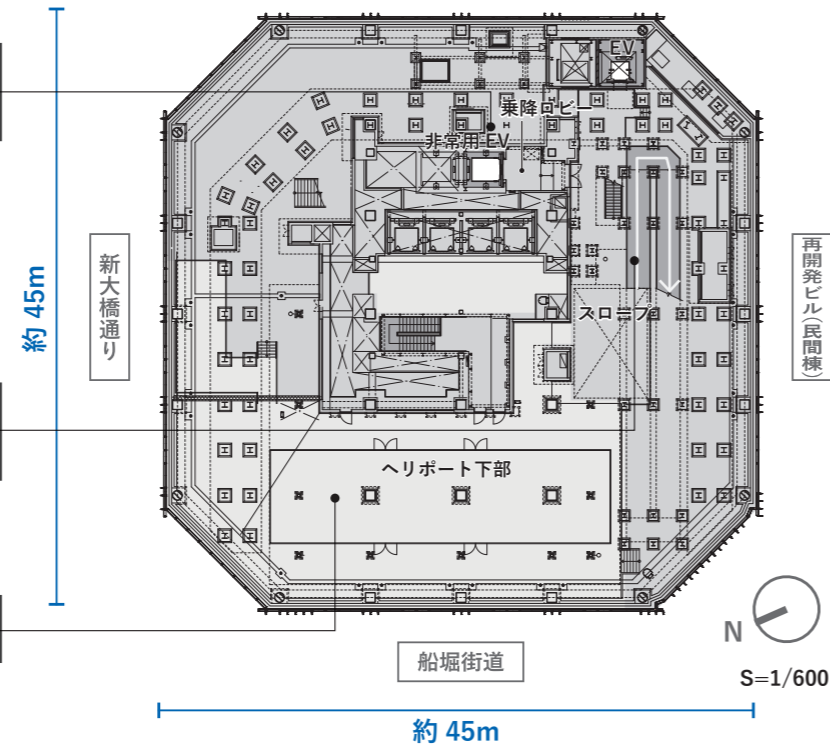
1/20 以下の緩勾配スロープを設け、PH 階とヘリポートを段差無く接続し、災害時の迅速な救助活動、物資輸送を支援。

設計方針 5

屋外設備スペース

ヘリポート下部の空間を有効活用。

PH 階からヘリポートへ緩勾配のスロープを設け、ストレッチャー搬送の迅速性と安全性を高めます。



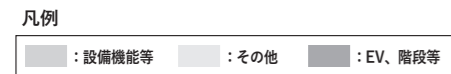
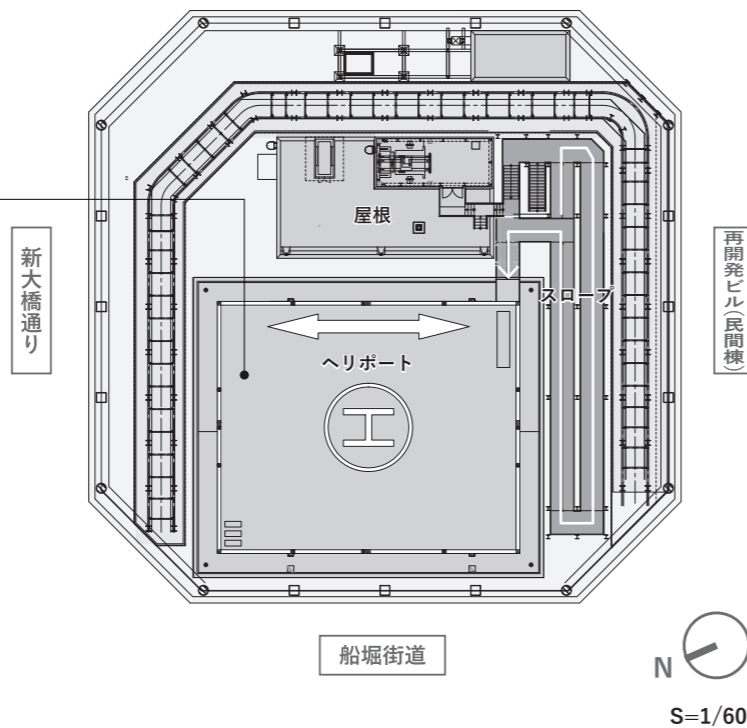
水害時の物資輸送や要救助者の避難を想定し、大型ヘリの離着陸にも対応した大型ヘリポートを設置します。

PHR 階 平面図

設計方針 1

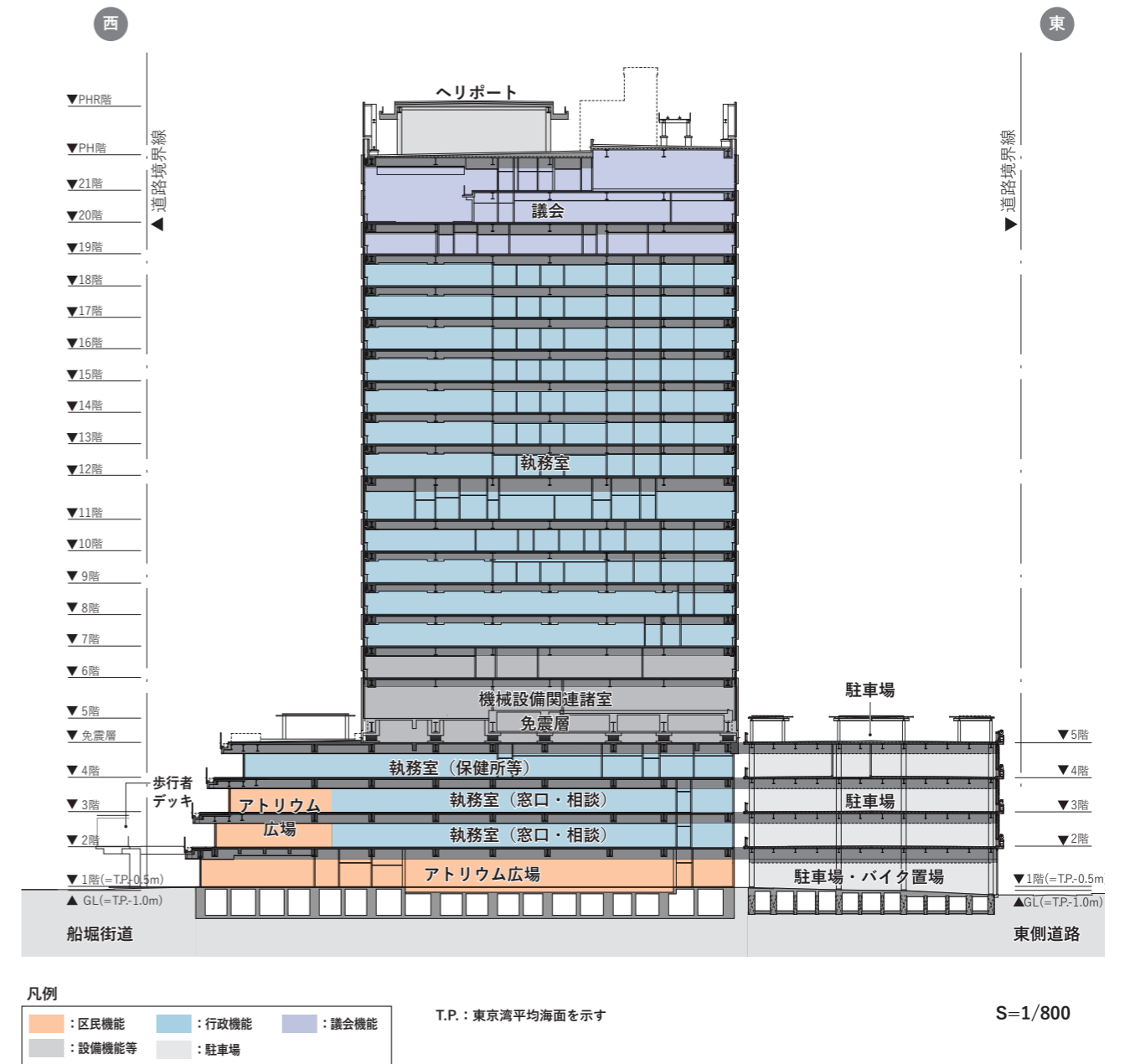
ヘリポート

東京消防庁が保有する最大機種ヘリの離着陸可能。
【屋外緊急離着陸場 A (防災関係公共施設) 相当】



● 断面計画

東西軸 断面図



T.P.: 東京湾平均海面を示す

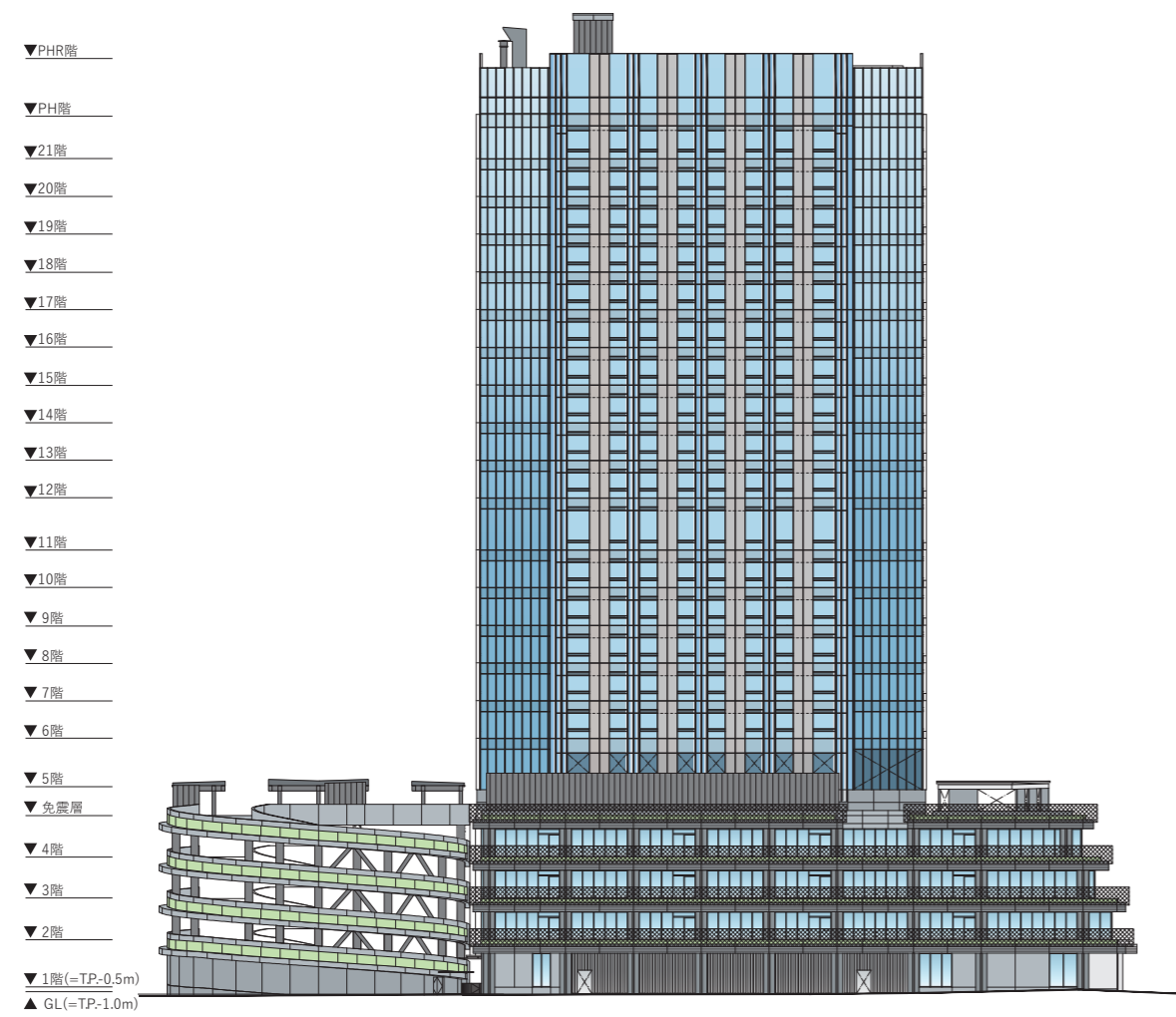
S=1/800

※実施設計段階のイメージであり、今後変更となる可能性があります。

3. 新庁舎建設の概要

● 立面計画

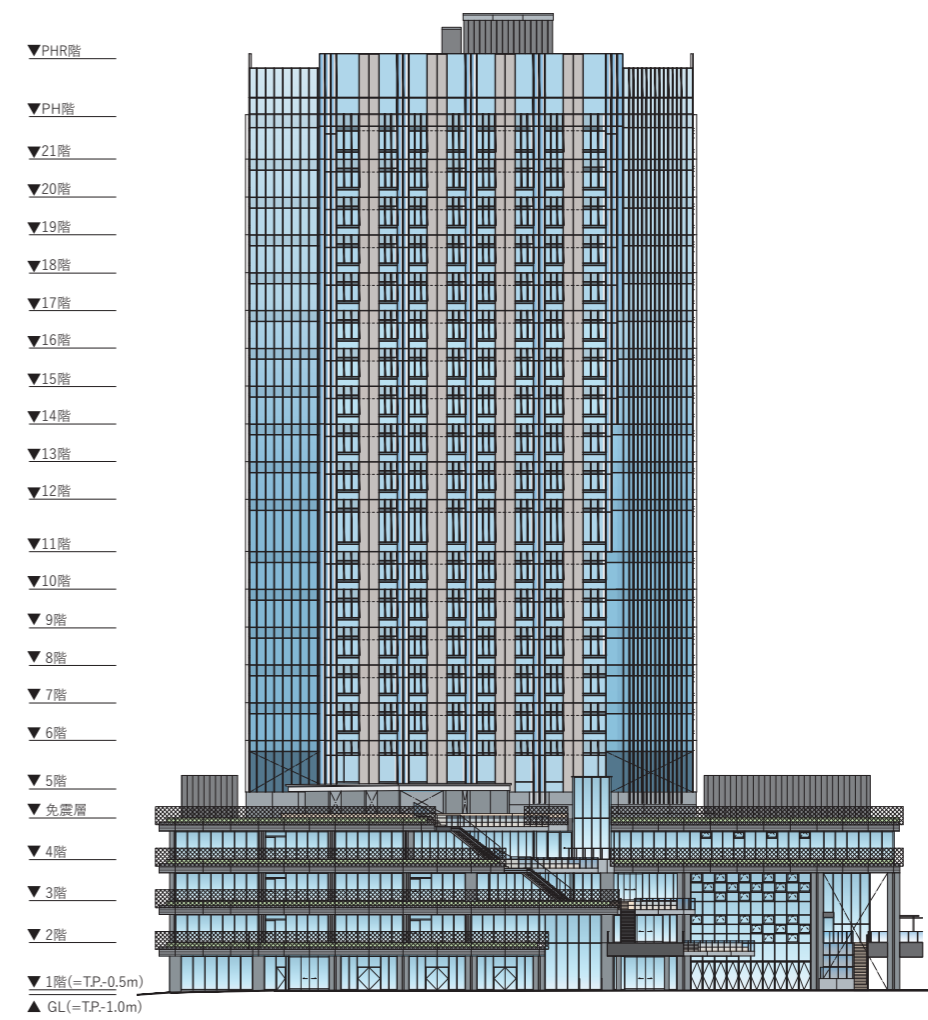
北 立面図



T.P.: 東京湾平均海面を示す

S=1/800

西 立面図



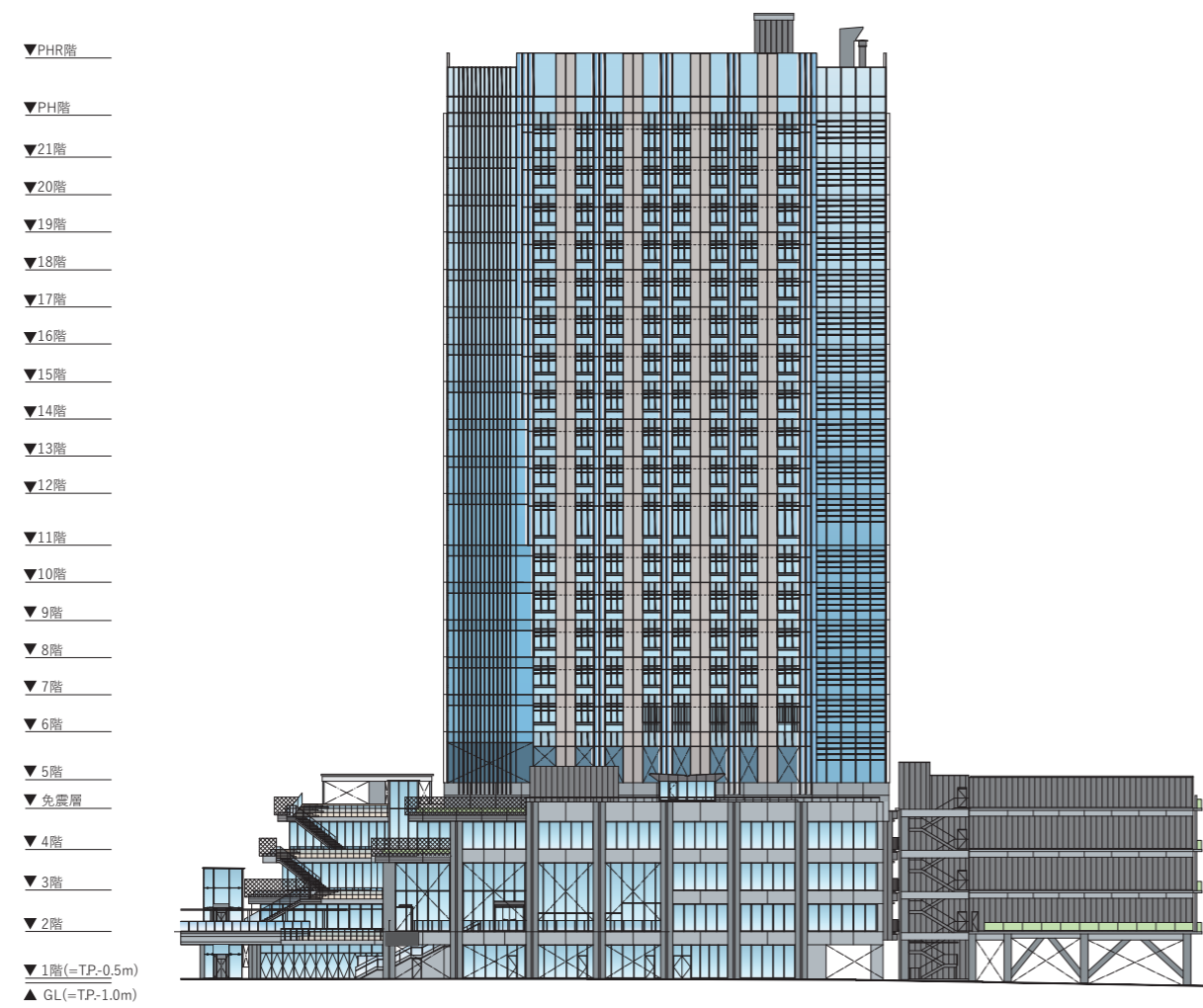
T.P.: 東京湾平均海面を示す

S=1/800

3. 新庁舎建設の概要

● 立面計画

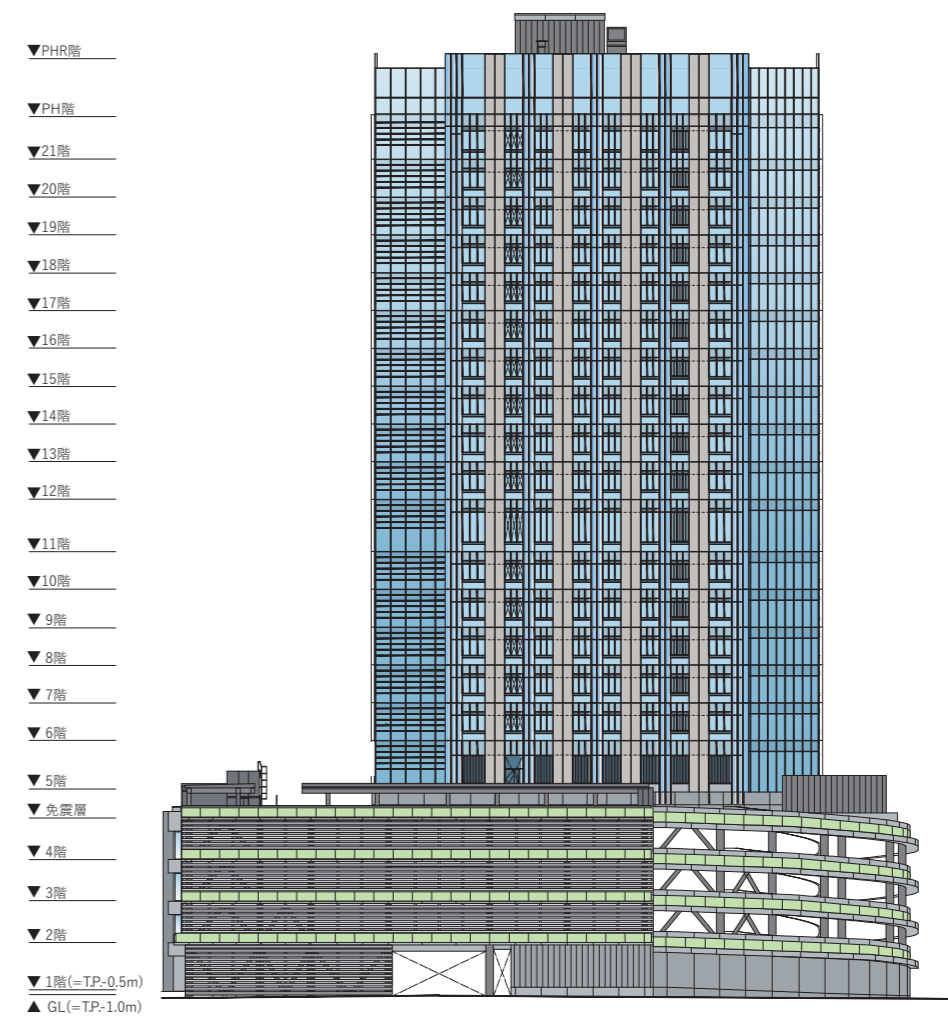
南 立面図



T.P.: 東京湾平均海面を示す

S=1/800

東 立面図



T.P.: 東京湾平均海面を示す

S=1/800

※実施設計段階のイメージであり、今後変更となる可能性があります。